

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説
(平成 26 年 3 月 7 日)

【二四】子貢 問いて曰く、郷人 皆 之を好せば如何と。子曰く、未だ可ならずと。郷人 皆 之を悪まば如何と。子曰く、未だ可ならず。郷人の善なる者、之を好し、其の不善なる者 之を悪まんには如かずと。

子貢は頭がよく金儲けが上手で、口八丁手八丁のような人物です。

子貢が「一つの村の人間が、皆あの人は良い人間だというようだったら素晴らしい人物だと考えて良いでしょうか」と聞きました。孔子は「皆が皆、良いというから信じたのでは、いけない」と答えました。子貢が「それだったら皆が皆あいつは良くないと悪くいうものであれば、逆に良いでしょうか」と聞きました。孔子は「それも駄目だ。皆が駄目だといっている人間を良いということはできない。善い村人たちの中から、あいつは良い人間だといわれ、村の悪人から憎まれる人間を選ぶ方が、良いのではないか」と答えました。

今の時代で考えますと、選挙でしょうか。皆が良い人物だということで投票した、また当選したからといって、良いとは一概には言えない。皆の票が入らないで落ちる場合もある。落ちたからといって能力がない、悪いやつとは言えないし、あと指を差すようでは駄目です。

最近の日本維新の会は、石原慎太郎を祭り上げておいて、若手議員は追い出せ・追い出せと合唱が始まっている。日本維新の会などを見ていると、面白い政治家の集まりだなと感じます。

こういう解釈は、洪澤栄一がしています。その当時の選挙でも当選したからといって、素晴らしい人物だと思っはいけない。裏でどれだけ金をばら撒いて当選しているか分からないじゃないか。僅差で落ちたからといって、あいつはダメだと指差すようではいかん。素晴らしい人物とは、なかなか分からない。金をばら撒いたから勝つかもしいないんだから、という風に洪澤栄一が活躍した時代である明治時代でも言っていますから、今はそれがさらに酷くなっているのだなと感じます。